

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 0292400116 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人奥津軽会 | | |
| 事業所名 | グループホームなかさと | | |
| 所在地 | 青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山434番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年12月15日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 青森県青森市中央3丁目20番30号 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年2月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅時と違い、また、コロナ禍もあって外出が大きく制限されているため、利用者様にはせめて風を肌で感じていただき、外の空気を吸ってほしいとの思いから、毎朝、利用者様の役割と散策を兼ねて、敷地内のゴミ置き場まで職員と一緒にゴミ捨てに行きます。少しの時間ですが、外を歩くだけで「サツパリする」と喜ばれています。今年度も施設の窓辺から見える場所に色とりどりの花を植えたプランターを配置しており、毎朝職員が水やりをしていると「花がきれい」「水をかけているので元気がいい」「天気がいいので気持ちがいい」等、利用者様は思い思いに話し、季節や気候を感じていただいております。ご家族には会いたい時に会えない状況が続いているので、お互いを心配することなく過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の中心部の利便性が良い場所に立地し、高台にあるため、災害時の避難場所にもなっている。
開設から5年のホームで、各居室には洗面台とトイレがあり、ベットや衣類ダンスも設置しているため、プライベートが守られており、過ごしやすい環境を整備している。
職員は折りに触れて利用者や家族の意見や要望を把握できるように努めており、利用者の日々の生活に寄り添い、地域の中で、その人らしく暮らし続けることができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「利用者様の日々の生活に寄り添い、今日も一日でいねいに、地域ともに」を介護理念に掲げている。また、朝の申し送りに唱和して、理念を全職員で共有し、日々のサービス提供に反映させている。 | 地域密着型を意識したホーム独自の理念を作成しており、職員がいつでも見ることができるよう、ホーム内に掲示している。また、毎朝の申し送り時にも唱和し、理念を共有している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 今年度も外出や地域との交流が制限された。唯一、交流を兼ねて地域の顔馴染みの美容室に来ていただき、毎月ヘアークットをしてもらっている。 | コロナ禍のため面会を制限している状況だが、家族や地域住民からの差し入れもあり、地域と良好な関係を構築している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症に関する相談にはその都度対応している。また、美容室の来訪により、会話を通して、利用者様の状態を地域の人達に理解していただいている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を年6回開催しているが、コロナ禍なので書面での開催となっている。行政や地域包括支援センター、関係各位からの提案等を課題とし、今後のサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議は町職員や地域包括支援センター職員等がメンバーとなっており、コロナ禍のため、資料を送付して意見をいただいている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 疑問やわからない事は、行政の担当者にその都度連絡をして質問し、指導・助言等をいただいている。 | 感染症対策や利用者に関わる制度等、必要に応じて随時行政に問い合わせ、課題解決に向けて連携を図っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束のマニュアルを整備し、身体拘束対象行為の理解や、日中の玄関の開錠に取り組んでいる。 | 日中は玄関を施錠しておらず、居室にも鍵はない。身体拘束に関するマニュアルや同意書等の様式を整備している他、身体拘束廃止については、毎月の職員会議で話し合いを行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待の見逃しが無いよう、随時、アザや傷が見られた時は、いつ、どのようにしてできたのか確認している。また、職員間で情報を共有し、虐待を見過ごさないよう、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 日常生活自立支援事業を利用している利用者様があり、必要性やそれに係る関係者の説明を管理者が行っている。また、成年後見制度についても話し合い、必要に応じてご家族に説明している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、重要事項説明書と契約書を用いて説明を行い、ご家族の入所への思い等を聞き取り、理解をいただいてから契約締結をしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様・ご家族が不安に思っている事や要望等をその都度伺い、その思いを理解し、迅速に対応している。玄関にご意見箱を設置し、ご家族の思いに寄り添えるように努めている。 | 毎月の利用料の支払いでホームを訪れた際等、家族に要望や意見等を聞いている。また、相談や苦情の受付についても入居時に説明している他、ホーム内に意見箱を設置している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎朝の申し送り時や職員会議で、職員の意見や提案を聞いている。また、事業所の代表者が毎朝顔を出し、利用者様に声かけをして思いを導き出しており、職員からは疑問や意見等を直接確認している。 | 職員会議を開催し、職員が意見を出せる機会を確保している。また、職員から出された意見を尊重し、必要に応じて業務に反映できるように努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員が得意分野を活かした役割・やりがいを持ち、職務に励めるようにしている。勤務時間の調整や有休休暇取得がしやすいよう、環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 日々の業務を通して、職員間で情報・知識を共有し、スキルアップにつなげている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他事業所職員との情報交換や疑問等を話し合い、サービス提供において気づきがあり、サービス向上に反映させている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 施設での生活の不安や迷いに寄り添い、思いを傾聴し、不安を軽減して施設で安心して過ごせるよう、何でも話せる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入所申し込み時から連絡をとり、入所の経緯や要望・疑問等の聞き取りを行い、入所に対するご家族の不安等を少しでも払拭できるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 利用者様の状態を観察し、利用者様とご家族の思いを伺い、サービスを開始している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様の動作や表情等を観察し、思いを傾聴して、職員とは一緒に生活していく家族であることを理解してもらい、不安なく過ごせるような支援に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族にはその都度連絡し、必要に応じて受診に同行していただき、本人の身体機能等の状態を共有しながら、利用者様を心配することなく生活できるようにしている。利用者様とご家族の関係が希薄にならないよう、ご家族の協力を得られる関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様やご家族の要望により、地域の馴染みの美容院を利用して地域の人達とふれあうことで、利用者様が地域の一員であることを認識できるように支援している。 | コロナ禍ではあるが、地域の美容院が月1回訪問している。また、希望に応じて電話や手紙のやり取りをお手伝いし、馴染みの関係を継続できるように取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様の状態を観察し、職員が積極的に声がけをして、共通の話題を提供したり、地域の現在の様子を伝えている。また、利用者様の記憶に残っている話題を提供し、会話の和を広げて孤立しないように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も相談に応じる等、できる限り支援をしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の思いや暮らし方の希望、意向等を共有し、職員が利用者様の思いに寄り添ったサービスを提供できるように努めている。また、困難な時は、本人の思いに沿えるように検討している。 | 担当職員は勿論、職員全員で利用者を見守り、言葉で表せない方は注意深く行動を観察しながら、思いや意向の把握に努めている。また、申し送り時に職員間で情報を共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族や在宅時の担当ケアマネジャーより、生活歴や趣味等の情報を収集し、引き続き趣味等を楽しみながら生活できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 状態を観察し、一人ひとりの一日の過ごし方を職員が共有している。また、理解する力や不得意な事を把握し、サービス提供をしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様、ご家族の意向を介護計画に反映させている。ケース会議で利用者様の課題を検討し、介護計画に基づいてサービス提供ができていないか評価をしておき、新しい課題を随時検討している。 | 実施期間終了後にモニタリングを行うと共に、利用者や家族に希望等の変化がないか、確認をしている。また、状況に変化があった場合等は、実施期間に関わらず随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録に入力し、更に連絡ノートを活用して職員が記録内容を理解しており、月毎に評価して介護計画の見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | できる限り柔軟にサービス提供ができるよう、職員間で情報を共有し、サービスを提供している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者様が地域の資源を利用し、施設の外で力を発揮する機会はなかった。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様・ご家族の意向に沿い、可能な限り在宅時と同じ医療機関に通院できるように支援している。また、情報提供をして、適切な治療を受けられるようにしている。初診時や検査等にはご家族に同行をお願いし、病状や治療方針を共有している。 | 入居前の医療機関を継続して受診できるように支援している他、かかりつけ医がいない場合は、協力医療機関を紹介する場合もある。初診の際は必ず家族にも同席していただき、医師の説明を聞いて情報を共有している。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同じ敷地内にある小規模多機能型居宅介護事業所の看護職員と情報共有し、利用者様の状態に変化が見られた際は、その時々で看護職員に相談して指示等をいただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時に情報提供書を作成し、できる限り早い段階で情報提供をしている。また、日頃から、各病院の地域連携室の相談員との関係作りに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に重度化した時や終末期の対応について、本人・ご家族に説明している。また、対象となるケースがあった時は、早い段階から本人・ご家族に説明し、方針を共有してチームで支援できるように取り組んでいる。 | 看取りは行っていない旨、入居時にホームの方針を説明し、家族等の意見を聞いている。また、状態の変化があった場合には、利用者や家族の希望を伺い、ホームの方針を基に随時話し合いを行う体制である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の連絡網を整備している。急変時の研修を実施して、知識の向上に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 朝の申し送り時に、火災発生時の避難場所等の確認を行っている。 | 避難訓練を利用者と職員と一緒に実施し、いざという時には地域住民からも協力が得られる関係を構築している。また、設備点検も定期的に行っている他、災害発生時に備え、食料や水、衛生用品等も用意している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様は人生の先輩であること、利用者様と職員は立場が同等であること、職員は施設での生活をお手伝いさせていただいていることを自覚し、言葉で人格を傷つけないように取り組み、思いやりのある声がけと笑顔での対応を心がけている。 | 利用者はさん付けで呼び、同じ苗字の方は名前で呼ぶ等、利用者や家族の納得を得た呼び方をしている。声がけや着替え時等はプライバシーに配慮し、他の利用者気づかれないように誘導している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者様の性格や意思の伝達能力を考慮し、日頃から表情・動作を観察している。また、筆談やジェスチャー等を交えて声がけをし、伝達したい事を導き出している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日課は決まっているが、できる限り利用者様の思いに沿った一日を過ごせるように、余暇活動の参加は強制することなく、参加の有無は利用者様が決めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 身だしなみやおしゃれは生涯続けてほしいとの思いで支援している。衣服は季節に合っているか、その人らしさ失っていないか等、観察しながら、さりげない声がけで支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | テーブルやお盆拭き、食後の後片付け等、負担にならない程度にお手伝いをお願いしている。昼食は職員と同じテーブルに着き、食べこぼしやむせ込みがないか、黙食しながら見守りをしている。食べられない物は代替食を提供している。 | 嗜好調査を行い、利用者の好みや苦手な物等を把握しており、配慮した食事を提供している。また、利用者の状況や意思に応じて、可能な範囲で後片付け等を手伝っていただいている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分の摂取量は記録に残し、全職員で把握している。必要に応じて法人内の栄養士に相談し、助言をもらっている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、うがいや歯磨きを実施している。忘れたり、一人でできない利用者様には声がけや介助を行い、口腔ケア内の清潔保持ができるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 個々の排泄パターンを把握しており、リハビリパンツや尿取りパットの使用については利用者様の意向を伺い、職員間で検討して見直しを行っている。また、夜間のみのおむつ使用も行っている。 | 利用者個々の排泄状況を記録し、パターンを把握して誘導する等、排泄の自立に向けて取り組んでいる。また、誘導時や失禁時の対応は、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮して行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の原因や及ぼす影響を職員が理解し、便秘が続いた時は薬にだけ頼るのではなく、果実・乳製品の摂取量等を考慮したり、運動を取り入れ、腸の働きが活発になるように取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている | 入浴日や入浴時間は概ね決まっているが、入浴の順番は当日の体調を考慮したり、本人の要望に配慮し、臨機応変に足浴やシャワー浴に変更している。 | 基本的に週2回は入浴できるように支援しており、個別入浴で、順番や方法は利用者の希望に沿って行っている。また、職員は利用者の習慣や好みに配慮しながらも、体調を考慮して負担がないように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 可能な限り利用者様の意思に任せている。個々の生活リズムを把握し、体調を見極めながら、余暇活動の参加を取りやめて休息を促したり、夜間に眠りが浅い時は要因を見極めて対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が利用者様の病状・病歴を理解し、薬の内容等を把握できるように取り組んでいる。飲み忘れや飲み違い防止のため、チェック体制をとっている。また、服薬により状態に変化がないか、観察をしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の希望や特技・趣味、生活歴や性格を考慮し、役割をお願いしている。天気の良い日には、敷地内のゴミ置き場へのゴミ出しの役割を持ってもらい、「外に出るとサッパリする」と喜ばれている。嗜好品は過度にならないよう、話し合って対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在は外出制限があり、通院以外の外出はほぼできない。少しでも季節を感じてもらいたいとの思いから、春から秋までの天気の良い日には、散歩を兼ねて施設の敷地内を歩き、お日様の光を浴び、風にふれて、季節を肌で感じてもらっている。 | コロナ禍前は外出支援に積極的に取り組んでいたが、現在は外出が難しい状況であり、できる範囲で戸外に出て、利用者の気分転換を図っている。また、ホーム内の行事を工夫し、利用者の楽しみとなるよう、支援に努めている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 施設で管理し、本人の希望に沿って、安心のため少額のみ自己管理している利用者様もいる。おやつや日用品等の買い物依頼があった時は、所持金の残高を伝え、不足な時はご家族からの入金があつてから買い物支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話は利用者様から依頼があつた時に支援している。また、荷物等が届いた時はすぐに連絡をして、本人の状態をお知らせしている他、遠方のご家族には定期的に電話し、近況をお知らせしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 廊下に胡蝶蘭等を配置して、毎年その花を咲かせて楽しんでもらっている。天気の良い日は窓を開けて太陽や風を感じている他、余暇活動での季節毎の作品を廊下に飾り、季節を感じてもらっている。移動の妨げにならないよう、動線には物を置かないようにしている。 | ホーム内は清潔感があり、湿度や温度を計測して快適な空調となるように管理している。また、テレビの音は高過ぎず、窓から日差しでホーム内は適度な明るさを確保している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間はいつでも自由に利用できる。食事の際の席は利用者様の関係を考慮して、随時席替えをしている。余暇活動の際は、活動内容に合わせてグループ分けをし、同じ活動の人達が話し合いがしやすいように支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時に利用者様やご家族にお願いをして、馴染みの物や大切な物を持って来てもらい、安心して過ごせる雰囲気作りを行っている。居室の飾り等は職員が提案等をし、一緒に行っている。 | 居室への持ち込みは自由で、在宅時に使用していた物や趣味の物も置くことができるようにしている。職員は利用者と一緒に、個々に合った居室作りを行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 環境面や福祉用具等を整備しており、移動や排泄等は身体機能に応じて安心・安全に配慮しながら、過介助にならないように心がけている。 | | |